

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人  
長野都市経営研究所

Vol.43

2012.FEB.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp



## 新年のご挨拶

理事長 市川浩一郎



新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

会員の皆様には、日頃よりNUPRIの諸活動に格別なるご支援ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は大震災を始め地球的規模での自然災害に加え、欧州諸国の財政危機と国内では急激な円高等々により世界経済が大きく変動した一年でありました。

産業界では製造業を中心にリスクヘッジによる海外進出の傾向が増加しつつあり、雇用環境の悪化も心配されております。

このような厳しい状況下ではございますが、「ピンチはチャンス」の如く、自社の強みを再発見し前向きに挑戦する年でもあらうと思っております。

NUPRIと致しましても、地域の活性化の為に中長期計画の基に研究・提言、そして行動する年としたいと思っております。

具体的には、昨年度まで展開して参りました「スポーツで切り拓く長野の未来」のテーマでの取り組みでは、AC長野パルセイロのJFL昇格の悲願を達成し、次なるJ2への挑戦により街の活性化に繋げる運動を展開して参ります。

一方、二〇一四年の新幹線の金沢までの延伸により長野が通過駅になるのではという懸念もありますが、「通過駅から着地駅」への展開として、観光客の誘致活動に繋がる長野市南部から提言さ

れている新しい交通手段のLRTによる公共交通網の整備事業につきましても、積極的に支援活動を推進して参る所存でございます。また、継続事業の「りんごの木オーナー制度」は年々盛況のうちに関催され、本年は収穫祭の開催方法等の見直しを考えております。一方、時機を得たテーマをもって開催し好評を得ております「わいがやサロン」では引き続き皆様に楽しんでいただくよう、諸々企画致して参ります。その他、中心市街地活性化への提言等の活動も致しておりますので、多くの皆様には積極的なご参加をお願い申し上げます。

平成二十四年は干支では「壬辰（みずのえたつ）」といい、「壬（みずのえ）は水のように自由に形を変え、環境に適応する様を表し、また草木の内部に新しい種が生まれる状態を表し、一方、「辰」は「振るう、整う」の意味で、草木が伸び、整っていく状態を示しているそうです。

従って、今年は新しい命が誕生し、大きく伸び、立派に成長する年と考えられ、ある意味、明るい未来を象徴しているといえます。

厳しい経済状況の中ではございますが、干支の謂れのように皆様と共に一丸となって街の活性化と地元経済の発展の為に、前向きに明るい気持ちで事業を推進して行けば必ず素晴らしい年となる、と考えております故、何卒力強いご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

皆様にとりまして今年一年、明るく良い年となりますようお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

NUPRI  
2012 (平成 24) 年  
新春座談会

# これからの長野とNUPRIの あり方を改めて考える。

3・11の震災、それに続く原発事故の余波、円高、政治の混乱、さらにタイの洪水……と、暗い話題に終始しがちだった2011年。明けた今年も記録的な豪雪による被害のニュースと、政局の混乱が日々のマスコミを賑わせています。

人を引きつけるユニークな発想や果敢な行動力、コミュニケーション力を発揮している人々や地域の取り組みがことのほか注目されるのは、この混沌とした時代において、新たな力に期待を寄せる人が多いからなのでしょう。

NUPRIは長野市とその周辺地域にとって、そのような存在になり得る組織です。そのために具体的にどうしたらいいのか、どこにどう働きかけ、どんな成果を上げていけるのかを、率直に語り合う座談会を開催しました。内容をご覧ください、皆様のご感想、ご意見をぜひお寄せください。会員個々の事業活動が厳しい今だからこそ、皆さん自身の未来を切り拓くためにも、今後の活動への積極的なご参加を期待します。

## 〈出席者〉

市川浩一郎 理事長  
市村 次夫 副理事長  
岩野 彰 事務局長 (司会)  
夏目 潔 Strategy 2014 部会長  
竹内 伊吉 新産業創出研究部会長  
掛谷 嘉則 中長期委員長  
鈴木 隆治 理事  
竹村 國彦 広報委員長

※平成24年2月1日、NUPRI事務所で開催 (文中敬称略)

**新カルチャー・新ビジネスの若い世代と  
既存の商工業者の接点となる  
NUPRIだからこそできる重要な役割**

岩野 (司会以下司会と表記) 地域の経済や市街地の活気が停滞するなか、改めてNUPRIの役割と方向性を考えない訳にはいかないうちです。本日は長野市および周辺エリアのこれからについて、まちづくりや活性化の視点からざっくばらんに、また率直に語り合っていたらこうと、理事並びに部会長の皆さんにお集まりいただきました。あわ



せてNUPRI自体の活性化についてもアイディア、ご意見をいただきたいと思えます。まず、理事長にひと言いただきましょう。

**市川** NUPRIの存在と役割の難しさに関しては、



皆さんご承知の通りです。この数年は長野を元気づけることを目標に「スポーツのまちづくり」を標榜し、さまざまな活動を展

開してきました。しかし、各方面に声かけはするが、それが地域の現実的な行動力に結びついていかないうちがゆさを、皆さんも感じ続けてきたのではないのでしょうか。《企業人が集まるNPO法人》であるNUPRIをもっと特色付け、地域に働きかけのできる組織にしていくために、いったい何をしたらいいのか、皆さんのお知恵をお借りしながら考え直したいと考えているところです。本日はぜひ率直にお考えをお聞かせください。

**市村** ちょうど昨夜、「わいがやサロン」で、善光寺門前の宿泊施設「1166バックパッカーズ」のオーナー・飯室さんのお話を興味深くうかがいました。既存のスタイルとは異なる宿泊業の展開を通じて、外国人も含めたさまざまな観光客や地域の同業者と交流しておられる様子も新鮮なら、兵庫県出身の彼女が長野に惚れ込んで、長野の魅力を一生懸命発信している姿も新鮮。同じような考え方の仲間の輪も広がっているといえます。新しいビジネス文化の動きが長野に始まっていることを実感するひとときでした。

NUPRIは企業人によるNPOだからこそ、

そうした新たな動きと既存の商工業者の接点の役割を担うことができるのではないかと思えます。いや、やらなくては若者の動きと既存の商工業が分離してしまう。NUPRIの役割も存在価値も、今以上に重要になるはずですよ。

**司会**

その意味では、鈴木さんのような若手に、まさに双方を理解できるコミュニケーション役として活躍していただければ幸いです。

ところでNUPRIは「観光による地域活性化とまちづくり」を今年度からの活動の中心にしていく考えです。それに関し、鈴木さんが具体的な活動で「行動するNUPRI」を実践しようとしているところですね。

**鈴木**

「中心市街地を歩いていただきたい」という発想から、NUPRIが主催する



事業として「牛に引かれて善光寺参り」の現代版、「門前まち花遊歩」というイベント企画を立

案いたしました。目下、条件付きでOKをいただき、具体的な企画検討を進めているところです。9月1日の大道芸フェスティバルに合わせた開催に向け、中心市街地の活性化協議会や商店街連合会の協力内諾もいただくことができました。

具体的には、セントラル・スクウェアに新たに作られるミニ公園を拠点に、全国から参加を募る50名〜100名ほどの着物姿の女性たちと、善光寺聖などの歴史衣裳を身にまとった地元の商品関係者が本物の牛とともに善光寺へ歩いて参拝するというもので、宿坊での食事や善光寺僧侶の講

話、さらには和の似合うまちづくりに関する講演会の併催等も計画しています。

基本的にNUPRIはまちづくりの団体として活動を継続してきたと理解しています。その個性と継続性を生かしつつ、大規模ではなくとも、まちにぎわいをもたらすことのできる個性あるイベントを通じて「NUPRI」の役割や存在感が市民に浸透していくような取り組みを行っていきたいと考えているのです。

もちろん昨年までの「スポーツのまちづくり」も、地域にとって非常に大切なことだと考えます。資



金提供やチケットの購入といった直接的な支援だけがサポートというわけではありません。監督の講演会やサッカー教室を通じた選手と市民の交流等、NUPRIとして今後も行っていけるサポートは少なくないでしょう。

**司会** 『門前まち花遊歩』のような新しい取り組みは、中長期委員会での話し合いが起点になっているのですね。



**掛谷** これからのNUPRIのあり方、まちづくりへの関わり方を模索し、中長期委員会として何か勉強会を行うなかで、新しい可能性が見えてきたのは確かです。しかし3・

11震災が、改めて「地域と企業」について深く考察する契機となりました。私自身、「企業は地域に支えられている」との確信を深めると同時に、やや傲慢ではありますが「福島の人々に何とかな手をさしのべたい」という思いを深くしました。その前提に立ってNUPRIは何をすべきか、地域の特性は何だろうかを皆さんに問いかけ、また夏目さんのお力を借りて情報収集や研究を進める過程で、「観光」の視点が浮上し、大きな意味を持つようになつてきたのです。

NUPRI自体が地域に生きる一企業体のような組織です。その特異性を認識、発揮し、観光という視点から「地域の力を持ち直そう」ということ、また、観光という視点で「自分たち自身があがいてみよう」という2つを軸に、活動や組織体制を取れんさせる年に、今年はしていきたいと考えます。

## NUPRIの持ち味、**「談論風発」**で自由な発想を広げていこう

**夏目**

人口の減少を止める手立てがない今、地域を



活性化するには交流人口を増やすしかないため、あらゆる団体、あらゆる地域が「観光」に目を向けています。しかし持ち場持ち

場でその役割は違うわけで、NUPRIにはNUPRIの関わり方があるはずだと、ずっと考えてきました。

振り返れば、長野オリンピックで、主催側の当初の計画をひっくり返し、中心市街地のセントラル・スクエアでの表彰式を実現させたのは私たちNUPRIでした。それを可能にしたのは、企業人の集まりであるNUPRIのパワーであり、談論風発から出てきた独自の発想と、言い出したからには運営や資金調達までなんとかしてしまおうという行動力だったはず。ところがこの10年、NUPRIは市にさまざまな提言を投げかけてはいるが、実質的には市のエポックに何ひとつ関わっていません。長野駅にしろ、市民会館にしろ、権堂の問題にしろ、NUPRIの知恵を生かす場面がもつとあつたはずだと思つてます。

実は先日地域の会議で、びんずる祭りの音響設備を市街地に設置することに関する話し合いがありました。そこで「せっかく設置するなら防災に生かす施策も検討したら？」と投げかけたところ、「それならこうすれば」「いや、ああすれば」「こんな方策もある」…と、自由な意見やアイデアが

どんどん出てくる。反論も忌憚なく言い合うことで、よりよい発想に変わっていく。ああ、これこそNUPRIの持ち味だったじゃないかと、改めて思い出した次第です。

長野のことを考えるなら、研究とか調査も大事ですが、その前にまず地域のエポックとなることさらにアンテナを張り、その時々が集まって自由に意見を述べる機会をつくってはどうかと思うんです。それが、さまざまな企業人が集まる知恵の宝庫たるNUPRIならではの発想を生かした活動につながっていくし、会員の皆さんの活性化にもなると思いますよ。まずは談論風発でいいんです。



竹内 「りんごの木オーナー制度」も「採れたて野菜市」も、実はそうして生まれた企画でしたね。



特に「野菜市」に関しては、地域の活性化に寄与できたというのは、あくまでも結果であって、当初の発想はいたって単純。「地域の生活に必要な地域の産品を地域で売ろう」ということでした。そのためどう売るか、どう品質を高めるかこだわりを持って追求し、定期的にしかも継続して行うことで、お客様に評価されるに至ったのです。

また、NUPRIにご支援いただいた塩沢さんの自然農法も軌道に乗り、収益が上がる事業へと成長しました。単なる生産販売ではなく、全国の会員と分配するという新しいシステムが実にユニークです。

こうした成功事例を基に、農業と観光について長野市にいくつか提言を行っています。そのうちのひとつでも具体的な施策に発展し、NUPRIとして担うことができれば、さらにおもしろいことになると思っています。

いづれにしろ、大上段に構えるのではなく、できることをひとつひとつ実行、実現、継続させていくことが大事だと実感しています。

司会 確かにそうした地道な活動の継続は、全国の人々に長野の魅力のひとつとして受け止められたりするんですよ。大きく構えず、堅いものにせず、まずは意見を言い、交流し、動いてみようというのが、今後の活動の指針になりそうですよね。

実は、そういう方向で制作した初のプロモーション

映像を、2月の全体懇談会では皆さんにご覧いただくことができます。楽しみにしていてください。

**観光ありきではなく  
まちづくりがあつてこそその観光  
おもしろい長野にしよう**

市村 「観光のまちづくり」っていうけど、本来は、



まちづくりの結果の観光でしょ。まず地域がおもしろくなくちゃダメなんです。新幹線の金沢延伸に関しても、長野という地域

のおもしろさを発信する方向で「東京〜長野泊〜金沢」の道筋をイメージできるような提案をしたいですね。それには居酒屋の営業時間も遅くなく、遅くなく。長野に泊まったら善光寺のお朝飯はぜひ経験したいよね。朝の散歩がてら朝飯を食べられる店も必要だ。で、おかずの素材は西山地域産とかね。そういう要素が揃って初めて長野でなくては体験できない観光メニューとしてアピールできるわけでしょう。

司会 最近、県外から出張で長野に来る若い人たちは、仕事の後、自分たちで「食ベログ」を見て飲みに行ったり食事に行ったりする場所を探している。地元の人たちに「おすすめの店はないですか」なんて意見さえ聞かないんですよ。ホームページやSNSでの情報発信も視野に入れる必要を強く感じますね。そうした意味では、NUPRIは行政の枠にとらわれないから、具体的な店を紹介し



たり、独自のランキングを設けたりすることも自由にできるわけですね。

市村 ランキングというのは東京人の目線だと思いますね。長野から発信するならば、長野でどんな時間を過ごせるか、用途に応じた情報発信が重要ですね。たとえば同じそばでも、家族みんなで食べに行くなら、一杯飲みながら味わうなら、山の景色を楽しみながらなら、といった具合に、用途別に店を紹介してあげる…。

竹内 朝、早く長野に着いたらこういうまちあるきコース、夜の長野を楽しむならこんなはしごコース…という具合に、きめ細かなプランメニューも

たくさん用意するのが親切だろうね。

**夏目** 地域の活性化や再開発を検討する際、データは必ずといっていいほど「若い人」となるけれど、本当にそうなのかという議論も必要なんじゃないのかな。中高年に特化した旅コースやメニューをあえて提案するのもアリだよな。

**掛谷** 震災後、長野と福島観光データを比較するなかで、福島観光データが実に詳細で、福島に旅した一人ひとりの動きやつながりまで想像できるようなデータ収集、分析を行っていることに感心しました。観光県といわれながらも長野県のデータは意外に大雑把なんです。ターゲットを知る上でも、長野への観光ニーズを正しく把握する上でも、もっとデータを取る必要があると思いますね。

**市村** 市場のニーズと企業の感性が合うと、おもしろい取り組みが出てくるよね。その逆の事例が、今の長野には残念ながら多いかもしれない。

**司会** 先ほどの夏目さんのお話の通り、まさに談論風発の空気になってきました。こうして出されるユニークなアイデアや提案をNUPRIとしてどう実現していくかが、今後の課題になってくると思います。

**夏目** 「観光」と「まちづくり」を大きなテーマに、枠にとらわれない少人数の自由な討論会をいくつも開催してみたらどうですか。それを積み重ね、集約させていっては。

**市村** 観光が地域にどれほど大きな影響をおよぼすかを、市民も行政も、もっともっと実感する必要がありますね。そのきっかけをNUPRIがつく

れるんじゃないでしょうか。

**鈴木** 企業人として大先輩の皆さんが集うNUPRIは、私たち若手から見ると非常に敷居が高く、堅いイメージ。でも、皆さんとこうして膝を交えて語り、目的を共有できると、自分たちもできることを提案し、行動したいという気持ちになります。それが市民の皆さんにも伝わると思っています。ぜひ楽しい会にしていきたいですね。また、個々の会員にメリットを感じてもらえるような取り組みも、活動の継続のために必要だと思います。

**市川** JICや商工会議所などさまざまな団体と機能を補完し合いつつ、有機的に関わることができているのが、我々NUPRIの誇るべき特長といえるでしょう。皆がそれぞれにテーマとしている「観光」「まちづくり」での協働も視野に入れ、どんどん話し合い、どんどん行動するNUPRIをめざしたいですね。



**司会** 今年、NUPRIは「ここ掘れ! NAGANO」をテーマのひとつに、長野の眠れる魅力や宝を発掘して光を当て、観光に生かそうと考えています。そのため「善光寺門前暮らし」活動などで注目されるナノ・グラフィカとコラボレートし、「ここ掘れ調査隊」を組織する予定です。今後の動きにご注目いただくと同時に、ぜひともご協力をお願いします。本日はありがとうございました。

